

株 主 通 信

第 80 期 中 間 報 告 書

(2026年1月1日～2026年6月30日)

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第80期上半期の業績概要および今後の取り組みについてご報告申し上げます。当上半期におきましては、地政学リスクや米国の通商・関税政策による影響に対し、為替の円安効果に加え、産業分野におけるAI導入の進展に伴う高精細な画像認識ニーズ等の高まりを背景に、監視&FA関連事業とモビリティ&ヘルスケア、その他事業が2桁増収と全社業績を牽引いたしました。写真関連事業におけるOEM製品の大幅な減収要因を吸収し、売上高は432億81百万円(前年同期比3.8%増)と増収を確保いたしました。利益面においても、部材のコストアップや将来の成長に向けた研究開発投資、人件費上昇等による販管費増により営業減益となりましたが、概ね計画通りの着地となっております。

通期の見通しにつきましては、中東情勢悪化等によるコストアップ影響等はあるものの、期初計画通り、増収増益を見込んでおります。

なお、当社は本年、2035年に向けた新長期ビジョン「撮り、測り、つなぐ。人と自然の健康を創造する企業へ」を公表しました。従来のレンズ専門メーカーの枠を超え、高度なセンシング技術やAIを融合させて社会課題を直接解決する「総合光学・センシングソリューション企業」へと飛躍いたします。次期中期経営計画『Value Up29』では、2029年に売上高1,200億円以上、営業利益250億円以上、持続的なROE20%以上という高成長を目指してまいります。

配当金について

中間配当金につきましては、当初予想の10.50円から増配し、前年同期比で倍増となる1株につき20.00円とさせていただきます。また、年間の配当予想につきましても、期初計画の37.00円から1株当たり51.00円(配当性向60.1%)へ大幅に上方修正いたしました。

さらに、2027年以降においては、業績の波に大きく左右されることなく長期的かつ安定的な利益還元を行うため、「配当性向60%またはDOE8%のいずれか高い数値」を配当額決定の基準とするとともに、2029年までに約180億円規模の追加還元を実施する方針でございます。

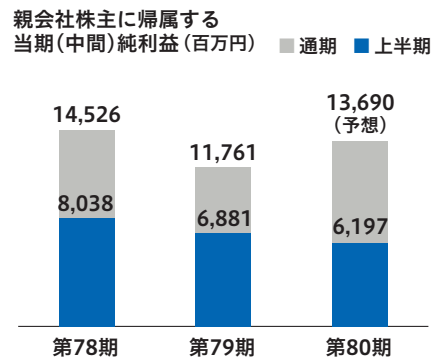
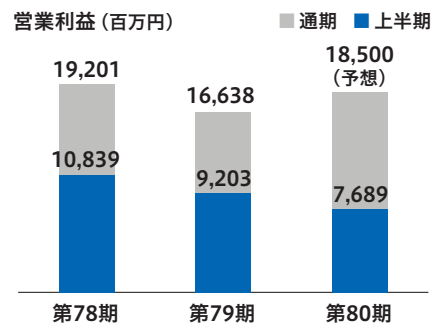
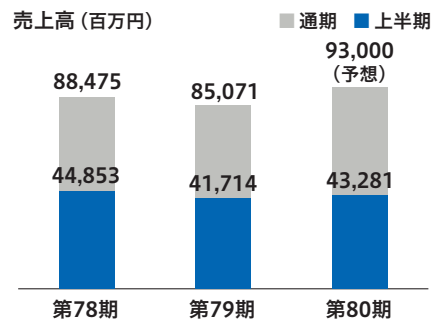
今後とも当社への変わらぬご期待とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 桜庭 省吾

TAMRON
Focus on the Future

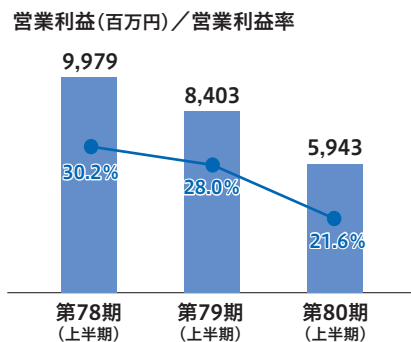
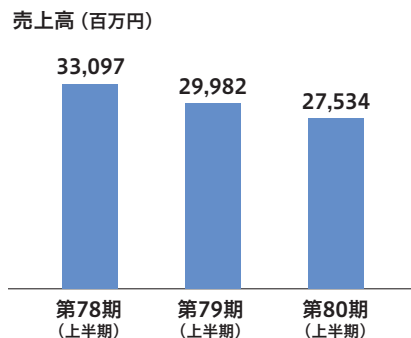


■ 連結財務ハイライト

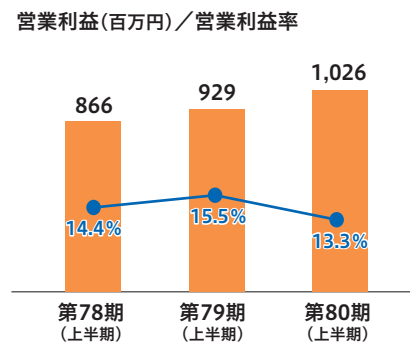
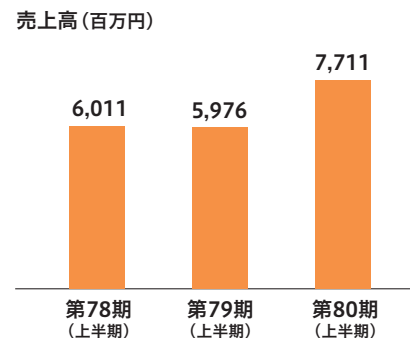


■ セグメント別事業の概況

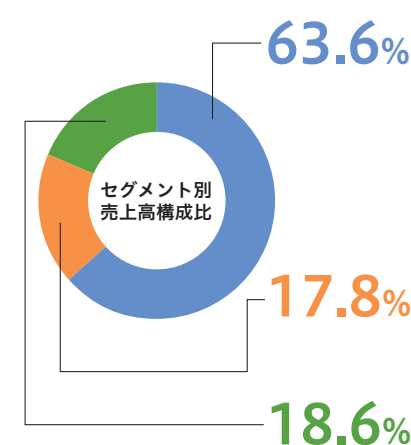
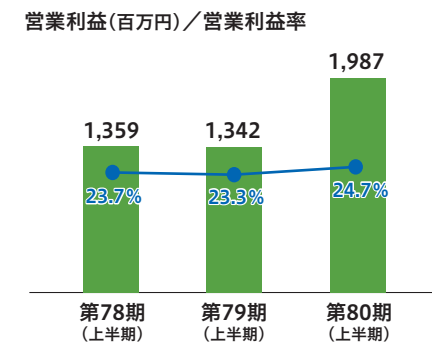
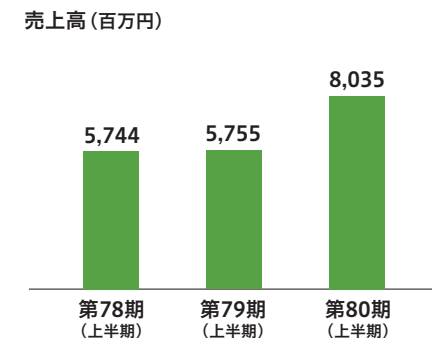
写真関連事業



監視 & FA関連事業



モビリティ&ヘルスケア、その他事業



写真関連事業

自社ブランド製品は、2025年にソニーEマウント用2機種、ニコンZマウント用3機種、キャノンRFマウント用1機種の計6機種の新製品を投入いたしました。2026年は年間10機種以上の新製品投入を予定しており、3月には大口標準ズームレンズ(A078)のソニーEマウント用およびニコンZマウント用を発売し、ラインナップ拡充を図りました。これらの新製品投入効果もあり、中国では市場在庫過多の影響が継続し減収となりましたが、米国、欧州、インドでは2桁の増収となり、日本も好調を維持した結果、自社ブランド全体としては増収となりました。OEMにおきましては、前年下期以降の一部受注機種の販売低迷が継続し、減収となりました。

このような結果、写真関連事業の売上高は275億34百万円(前年同期比8.2%減)、営業利益は59億43百万円(前年同期比29.3%減)となりました。

監視 & FA関連事業

監視カメラ用レンズやカメラモジュールは、高精細・高解像ニーズの高まりや用途の多様化等を背景に先進国向けを中心に好調を維持し、2桁の増収となりました。FA／マシンビジョン用レンズも、前年までの顧客における在庫調整の影響が落ち着きを見せ、2桁の増収となりました。TV会議用レンズは市場の低迷が続くなか、既存機種の底堅い需要により前年同期並みを維持いたしました。

このような結果、監視 & FA関連事業の売上高は77億11百万円(前年同期比29.0%増)、営業利益は10億26百万円(前年同期比10.5%増)となりました。

モビリティ&ヘルスケア、その他事業

車載カメラ用レンズは、安全運転支援システム(ADAS)の普及に伴う高度なセンシング用途の旺盛な需要が継続し、前年同期に伸び悩みが見られた中国市場向けにおいても回復を見せ、2桁の増収となりました。また医療用レンズにつきましても、当社の強みである極小径レンズを可能とする精緻な加工技術を核とした低侵襲治療を支える硬性内視鏡用レンズのラインナップ拡充や、高度な波長制御技術を駆使した近赤外線照射してガン細胞を可視化する、蛍光ガイド手術用の蛍光フィルタの好調等により、前年同期比で2倍以上の大幅な増収となりました。

このような結果、モビリティ&ヘルスケア、その他事業の売上高は80億35百万円(前年同期比39.6%増)、営業利益は19億87百万円(前年同期比48.0%増)と2桁の増収増益となりました。

総合光学・センシングソリューション企業へ —— “光”の可能性で高成長を実現し、より長期的かつ安定的な利益還元へ

① 2035年長期ビジョン

総合光学・センシングソリューション企業へ

当社は2035年に向け、「撮り、測り、つなぐ。人と自然の健康を創造する企業へ」を新たな長期ビジョンに掲げ、持続的なROE20%以上、売上高2,000億円以上、うち新規事業売上高200億円以上を目指します。

従来の当社は、写真用交換レンズや産業用レンズ等のコンポーネントを供給するビジネスが中心でした。今後は、長年培った光学技術に高度なセンシング技術やAI・画像処理技術を融合し、社会課題を直接解決する「光学システムやサービス」自体を提供するビジネスモデルへ進化してまいります。

今後 総合光学・センシングソリューション企業 —コンポーネント+光学システム・サービス供給—

- ◆自社ブランド交換レンズ、OEM交換レンズ
- ◆より多様な産業に向けた光学レンズの供給
- ◆産業向けには光学レンズに高度なセンシング技術・AI/画像処理技術等を融合した光学システム、サービスの供給



従来 レンズ専門メーカー —コンポーネント供給—

- ◆自社ブランド交換レンズ、OEM交換レンズ
- ◆監視・FA・車載・医療等の産業に向けた光学レンズの供給

② 次期中期経営計画『Value Up29』

写真事業の高収益性を基盤に、産業向け事業の年15%成長で創る「高成長ロードマップ」

新長期ビジョンへ向けたマイルストーンとなる次期中期経営計画『Value Up29』の骨子を策定いたしました。資本効率・売上高・利益目標は以下の通りです。

現中期経営計画 Value Creation26 ver2.0 (2024-2026年)		次期中期経営計画 Value Up29 (2027-2029年)	
ROE	16%以上	ROE	持続的に20%以上
売上高	950億円以上	売上高	1,200億円以上
営業利益	205億円以上	営業利益	250億円以上

■写真関連事業：自社ブランドはブランド力を生かした価格対応力、OEMは競合が限られる事業環境を生かし、収益性を維持しつつ成長を目指します。

■産業向け事業：AIの進展による高精度な画像認識ニーズの高まりや用途拡大に伴い、高解像度・耐歪み性能・耐温度変化に優れた当社の光学技術が強みとなります。従来の部品供給としてのラインナップ拡充に加え、「光学システムやサービス」自体を提供するビジネスモデルを構築し、年15%成長を目指します。

■新領域：非連続な成長に向けた戦略投資枠210億円を設定し、M&Aやアライアンスを大胆に活用することで、フィジカルAI・ヘルスケア・ネイチャーポジティブ等の新領域への参入を確実なものにします。

③ 株主還元の更なる拡充

長期的かつ安定的な利益還元が行える還元方針と、約180億円規模の追加還元

次期中期経営計画『Value Up29』が2027年12月期からスタートすることに鑑み、当社は、企業価値の一層の向上を図ることを目的として、2027年12月期より株主還元方針を下記の通り変更することといたしました。

従来	2027年12月期より
配当性向40% (DOE3%を下限目安) 総還元性向60%	配当性向60%または DOE8%の高い方 追加還元約180億円 (2029年12月期末までに)

■2027年12月期からの新株主還元方針

長期的視野での経営体質強化および新事業展開等を図るための研究開発、設備投資等を勘案するとともに、より長期的かつ安定的な利益還元を実施するため、従来の配当性向40%から「配当性向60%またはDOE(株主資本配当率)8%のいずれか高い数値」を配当額決定の基準といたしました。

■約180億円規模の追加還元を実施予定

資本効率の向上の一環として、自己資本比率75%程度への適正化を目指し、2029年12月期末までに約180億円の追加還元(自己株式取得や配当等)を機動的に決定、実施する予定です。

お知らせ 株主優待制度の導入検討について

当社株式の投資単位を引き下げることで株式の流動性を高めるとともに、投資家層の拡大を図るため、現在の中期経営計画において2期連続の株式分割を行いました。その結果、個人株主様は約3倍に拡大いたしました。これを踏まえ当社では、株主の皆様との接点を強化し、当社の事業に対する長期的な理解と保有を促し、更なる投資家層の拡大を図るために、次期中期経営計画において株主優待制度の導入を検討しております。詳細が決まり次第、お知らせいたします。

トピックス

「タムロン 統合報告書2026」を発行

当社は、株主・投資家の皆様をはじめとするステークホルダーとの対話を深める重要なツールとして、「タムロン 統合報告書2026」を発行いたしました。本報告書では、2035年長期ビジョン「撮り、測り、つなぐ。人と自然の健康を創造する企業へ」を軸に、レンズ専門メーカーから「総合光学・センシングソリューション企業」へと深化するストーリーを解説しています。また、環境・社会・経済価値の創出プロセスやビジネスモデル、さらには技術・事業・知財・人材戦略、ESG／サステナビリティ戦略、ガバナンス体制にいたるまで、当社の持続的な企業価値向上に向けたロードマップを詳しくお伝えしております。ぜひご一読ください。

https://www.tamron.com/jp/ir/library/library_05.html

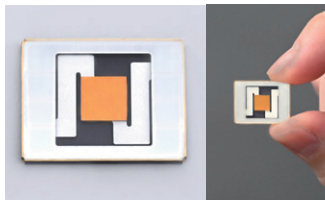


【技術開発発表】世界初*1、耐熱性に優れたチップ型「MIM構造を用いたメタサーフェス近赤外光源」の実用化に成功

当社は、GM（ガラスモールド）レンズ製造で培った熱処理・熱マネジメント技術を駆使し、発熱による熱劣化を克服することで、世界初となる極薄・軽量の「MIM構造を用いたメタサーフェス近赤外光源」の実用化に成功いたしました。

本光源により、従来は携行化（小型化）が困難だった分析・検査用近赤外光源の携帯化が可能となります。今後は美容・ヘルスケア分野における肌・血流の非侵襲モニタリング、食品・農業・漁業における糖度・水分・脂質の非破壊検査、コンクリートや複合材といったインフラの劣化診断など、当社の新領域（「測り、つなぐ」技術領域）への展開を加速させてまいります。

*1 2026年6月時点、当社調べ（MIM構造を用いたメタサーフェス近赤外光源の実用化において）
<https://www.tamron.com/jp/news/detail/20260616142754.html>



ポケットサイズで楽しむカジュアルポートレート、大口径標準ズームレンズ「35-100mm F2.8 (Model A078)」ソニー Eマウント用、ニコンZマウント用を3月26日より発売

本格派ポートレートズームとして高い評価を得ている「35-150mm F/2-2.8 Di III VXD (Model A058)」の軽量・コンパクト化への要望にお応えして、本レンズ、「35-100mm F/2.8 Di III VXD (Model A078)」を発売いたしました。ポートレート撮影で特に需要の高い焦点距離に絞り込むことで、大口径F2.8でありながら長さ119.2mm・質量565g*1という圧倒的な軽量・コンパクト設計を実現。ズーム全域での高い描写性能と柔らかなボケを兼ね備え、旅先でのポートレートからスナップ撮影まで幅広く活躍します。

*1 長さ、質量はソニー Eマウント用の数値です。

<https://www.tamron.com/jp/consumer/lenses/a078/>



※画像はソニー Eマウント用です。

クラス最大*1ズーム倍率の大口径標準ズームレンズ 17-70mm F2.8 (Model B070)

新たにニコンZマウント用、キヤノンRFマウント用を7月2日より発売

APS-Cサイズミラーレス一眼カメラ対応の大口径標準ズームレンズとして、クラス最大のズーム倍率4.1倍と全焦点距離での開放F2.8を実現する「17-70mm F/2.8 Di III-A VC RXD (Model B070)」に、新たにニコンZマウント用とキヤノンRFマウント用を、7月2日に追加発売いたしました。これにより本レンズは、2021年から22年にかけて発売*2したソニー Eマウント用と富士フィルムXマウント用を含め、4マウント展開が実現しました。クラス最大のズーム倍率と手ブレ補正機構「VC (Vibration Compensation)」を搭載しながらも、軽量・コンパクトを実現した本レンズを通じて、世界中の幅広い一眼ユーザーへタムロンレンズの価値を届けてまいります。



※画像はニコンZマウント用です。

*1 APS-Cサイズミラーレス一眼カメラ対応大口径F2.8標準ズームレンズにおいて。
(2026年5月現在。タムロン調べ)

*2 ソニー Eマウント用は2021年1月14日、富士フィルムXマウント用は2022年7月8日に発売済み

<https://www.tamron.com/jp/consumer/lenses/b070/>



TAMRON Lens Utility™の無線操作を可能にするアクセサリ TAMRON-LINK™発売およびiOS対応

専用機器を使わずスマートフォンやPCからタムロンレンズの機能を自在にカスタマイズできるアプリケーションTAMRON Lens Utility™の、無線通信操作を可能にするアクセサリTAMRON-LINK™を、2月19日に発売いたしました。また、TAMRON-LINK™の発売により、TAMRON Lens Utility™がiOSデバイスにも対応いたしました。TAMRON-LINK™をタムロンレンズに装着することで、スマートフォンからレンズの各種機能を実行できます。ケーブル接続の制約から解放され、現場での作業効率が向上し、より自由でスムーズな撮影体験が可能となります。ソフトウェアとハードウェアの融合（「つなぐ」技術）により、静止画のみならず動画市場におけるタムロンレンズユーザーのエンゲージメント向上、新規ユーザーの獲得を目指します。



<https://www.tamron.com/jp/consumer/soft/lensutility/>

会社概要

商 号	株式会社タムロン
創 業	1950年11月 1日
設 立	1952年 10月27日
本 社	埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
資 本 金	69億23百万円

株式の状況

発行可能株式総数	640,000,000株
発行済株式総数	170,800,000株
単元株式数	100株
株主数	14,607名
※単元未満株主除く、自己名義含む	

大株主

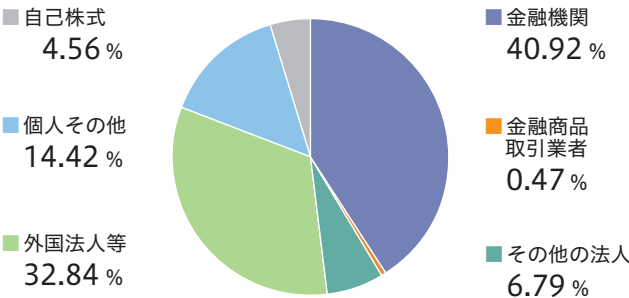
株主名	所有株式数(千株)	持株比率
ソニーグループ株式会社	25,038	15.35%
Suntera(Cayman)Limited as trustee of ECM Master Fund	17,541	10.76%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	16,152	9.90%
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	12,308	7.55%
株式会社埼玉りそな銀行	8,022	4.92%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	7,879	4.83%
日本生命保険相互会社	5,360	3.28%
株式会社アルゴグラフィックス	4,328	2.65%
株式会社三菱UFJ銀行	2,080	1.27%
タムロン協力会社持株会	1,935	1.18%

注1.持株比率は、発行済株式総数から自己株式(7,777千株)を控除して算出しております。
2.ソニーグループ株式会社の持株数25,038千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニーグループ株式会社が指図権を留保しております。

株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
TEL 048-684-9111(代) FAX 048-683-8289 <https://www.tamron.com/jp/>
■IR情報関連に関するお問い合わせ：経営戦略本部
TEL 048-684-9114(午前9：00～午後5：20) FAX 048-683-8282
e-mail：kabushiki@tamron.co.jp

株式所有者別分布 ※単元未満除く



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 毎年 12月31日
	期末配当 毎年 12月31日
	中間配当 毎年 6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) ※取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告 ※ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 当社ホームページ https://www.tamron.com/jp/

お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページのご紹介

当社ホームページでは、事業内容をはじめ、商品のご紹介からIR情報に至るまでの様々な情報を掲載しています。ぜひご活用ください。

コーポレートサイト
<https://www.tamron.com/jp/>

技術ページ
<https://www.tamron.com/jp/technology/>
コーポレートサイト>企業>技術情報

個人のお客さまサイト (写真用レンズ)
<https://www.tamron.com/jp/consumer/>

ビジネスのお客さまサイト (産業用レンズ)
<https://www.tamron.com/jp/biz/>

ソーシャルメディア 公式アカウント

- <https://x.com/TamronJP>
タムロン製品・サービスに関する最新情報やイベント情報、企業情報など幅広い情報をいち早くお届けします。
- <https://www.instagram.com/tamronjp/>
タムロンレンズで撮影された写真をアップしていきます。ユーザー参加型のイベントの他、#tamronを付けて投稿頂いた写真には積極的にいいねさせていただきます。
- <https://jp.linkedin.com/company/tamron-co.-ltd>
タムロン製品・サービスに関する最新情報、企業情報や採用情報などをお届けします。
- <https://www.facebook.com/tamron.highpowerzoom>
写真レンズに関する製品情報の他、最新のHPコンテンツ紹介、フォトコンテンツや各種イベント・キャンペーン情報を発信しています。
- <https://www.youtube.com/user/tamronpr>
CSR活動や、タムロンのものづくり、写真家による製品レビューなど、タムロンの取り組みを動画で発信しています。